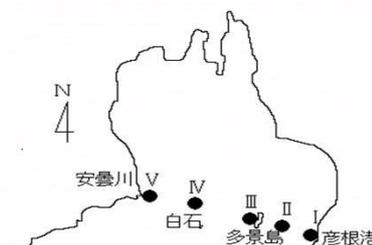


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年4月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和4年4月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

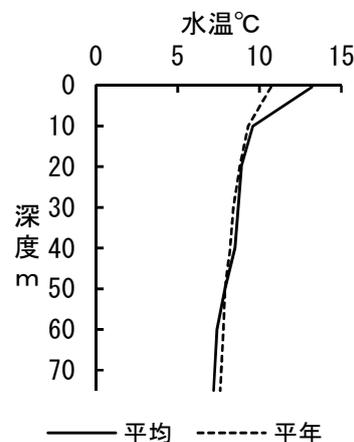
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 4月平均値 4.0m 平年値 5.7m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	13.2	10.7	+2.5
10	9.6	9.3	+0.3
20	8.9	8.8	+0.1
30	8.7	8.4	+0.3
40	8.5	8.2	+0.3
50	7.9	7.9	+0.0
60	7.4	7.8	-0.4
75	7.2	7.6	-0.4



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
3月下旬	10.1	9.2	+0.9
4月上旬	11.1	10.2	+0.9
4月中旬	14.0	11.4	+2.6

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	12.2	13.8	-1.6
10~20	3.9	4.7	-0.8
20~40	1.6	1.7	-0.1
40~75	0.4	0.7	-0.3

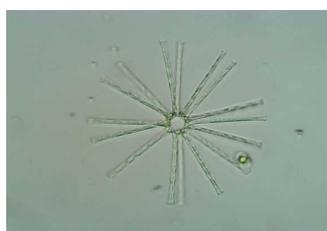
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

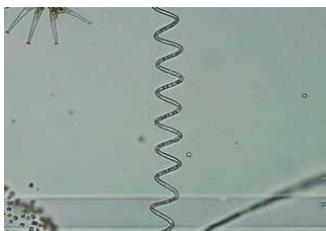
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Asterionella formosa*(ホシガタケイソウ:珪藻)、*Aulacoseira ambigua*(アウラコセイラ:珪藻)、*Uroglena americana*(ウログレナ:黄色鞭毛藻)が細胞数で多く認められた。また、地点2、3、4では*Aulacoseira nipponica*(アウラコセイラ:珪藻)も細胞数で多く認められた。*Staurastrum dorsidentiferum*(スタウラスツルム:緑藻)も量的に多くを占めている。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Kellicottia longispina*(トゲナガワムシ:ワムシ類)が個体数密度で最も多く確認された。



Asterionella formosa



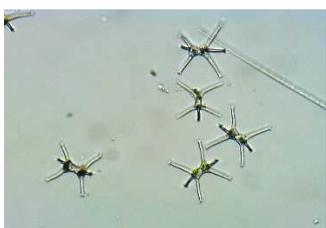
Aulacoseira ambigua



Aulacoseira nipponica



Uroglena americana



Staurastrum dorsidentiferum



Kellicottia longispina

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	4月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	12.2	120.5	11.6	106.9	0.6	(+13.6)
10	12.3	111.4	11.6	104.7	0.7	(+6.7)
20	11.4	100.6	11.4	102.2	0.0	(-1.6)
30	11.3	99.8	11.3	99.8	0.0	(+0.0)
75	10.3	88.2	9.9	85.4	0.4	(+2.8)